

院内学級における日本とベトナムを結んだ異文化理解授業の試み

Cultural Education in Hospital schools between Japan and Vietnam

山本裕一^{*1}, 佐藤修^{*2}, 小柳千佳子^{*3}, 伊藤かおり^{*4}, 濱田和^{*4}, 佐藤聖子^{*5}, 西牧謙吾^{*6}

^{*1}北海道大学情報基盤センター, ^{*2}国際交流基金ベトナム日本文化交流センター, ^{*3}札幌市立北辰中学校, ^{*4}大阪大学医学部附属病院分教室, ^{*5}関西医科大学総合医療センター分教室, ^{*6}国立障害者リハビリテーションセンター病院

^{*1}Information Initiative Center, Hokkaido University

Email:sierra@iic.hokudai.ac.jp

あらまし：病院内病院内に設置された院内学級では、様々な学年の子供達にたいして、個々の病状に応じて入院や治療などが行われる。このため子供達は空間的にも心理的にも閉鎖的な状況に置かれがちである。そこで、我々外界との接触が困難な子供達が容易にコミュニケーションをとるためのツールとして双方向遠隔通信環境による遠隔教育を行っている。本稿では北大院内学級と刀根山支援学級と共同で総合学習の一環として行ったベトナムとの異文化交流授業等について報告する。

キーワード：院内学級、異文化交流、テレビ会議システム、初・中等教育教育実践

1. はじめに

院内学級とは病院内に設置された病気の子供達が療養しながら学習する教室であり、長期や短期の入院のため生じる学習の遅れを少しでも解消することが第一義的な目的である。また入院や治療などで、空間的にも心理的にも閉鎖的、抑圧的な状況に置かれやすい病気療養児にとって、「気持ちの開放を図り、外に開かれた友人との交流を図る」ことは回復へ向けての意欲を育てることにつながる。北大病院院内学級ひまわりではテレビ会議システムやSNSなどを用いて海外のさまざまな人々と異文化交流をはかっている[1, 2]。現在、定期的に異文化学習授業を行える拠点としては、2015年に閉鎖された北大北京オフィスに代り吉林省长春市にある東北師範大学がある[3]。これまで交流を企画した中での問題点は、講師の確保の問題がある。これまでもそうであるが、ボランティアベースでお願いしているため、必ずしもこちらの都合で授業を行える訳にはいかない。また授業を行えた場合でも病気療養児の容態により参加できない場合が多い事もある。そこで、今年度から、授業機会を増やす事と、他のアジア諸国との異文化交流も考え、ベトナム・ハノイ市にあるベトナム日本文化交流センターからの遠隔授業を企画した。これまで、テスト的にベトナム、北大ひまわりとの遠隔授業を行ってきたが、6月にはこれまで連携して

遠隔授業を行ってきた大学医学部附属病院分教室、関西医科大学総合医療センター分教室も参加する予定である。

2. 各拠点のネットワーク環境

北大病院には医療用LANの他に北大の学内LANであるHIENSにも接続している。院内学級には数台のPCを設置し、HIENSに直接接続している。児童はSNSやメールにより友人や教員、家族などコミュニケーションを日常的にとることができる。また北大院内学級ではHINESの他に札幌市教育ネットワークにも接続している。北大院内に設置されているテレビ会議システムはPolycom社のHDX7000-720である。携帯電話などのような低帯域からHDTVなどの広帯域までの利用を想定されているビデオ規格H.264/H.263等と、音声規格H.323等を採用することによりHD720pによる双方向通信が可能であり、多地点接続機能により4地点まで接続可能である。また、ベッドサイドティーチングや屋外からの遠隔授業を行うために、ノート型PCにテレビ会議ソフトウェアPolycomPVXをインストールし、無線LANやモバイルネットワークを通して利用している。

ベトナム日本文化交流センターではベトナム最大手の電気通信事業者であるVietnam Posts and Telecommunications Group (ベトナム郵電公社)の

商用回線を利用している。またベトナムは2016年より運用を開始しているアジア域内を結ぶ新たな大容量光海底ケーブル Asia Pacific Gateway (APG)に参加しており、以前より安定性が増しているようである。

現在、連携して遠隔授業を行っている大阪大学医学部附属病院分教室（以下、阪大院内）は、2007年より教室にインターネット環境が整備され、2008年からは病室（個室）に無線LAN環境も整備され、更に2012年には全ての病室で無線LANが利用可能となっている。なお、教室ではノートPC、タブレット、テレビ会議システムはSD画質に対応している Polycom VSX6000 が利用できる[4]。

2014年から阪大院内学級に加え、テレビ会議システムを持たない関西医科大学院内学級も遠隔授業に参加してもらっている。当初は授業の様子を TwitCasting や Ustream などのライブ配信サイトにより配信し、iPadやPC等の端末で視聴してもらった。授業を視聴するだけの一方通行では、当然ながら子供達が飽きてしまう問題があったが、Polycomの映像を Skype を通してやり取りすることにより双方向性を確保している。

3. 複数の院内学級が参加する異文化学習

これまで我々は、総合学習の一環としてアラスカ大学、国立天文台ハワイ観測所、サウジアラビアキング Saud University、北大北京オフィス、中国東北師範大学とテレビ会議システムで結んできた。「異文化理解・コミュニケーション、各教科の発展的補完の総合的な取り組みと位置づけるとともに、各教科の今後の学習の動機付けとなるべく授業を行ってきた。これらの海外からの遠隔授業は講師の都合等により定期的に行えない場合が多い上に、はじめに述べたが、授業を行えた場合でも病気療養児の容態により参加できる児童がわずかになってしまい、数少ない遠隔授業の機会を生かせない場合もあった。そこで Polycom の多地点接続機能を利用し、大阪大学院内学級にも参加してもらう事によって児童の不参加による授業の中止という事態を回避している[4]。更に不定期になりがちな海外からの遠隔授業を補うために、互いの教室で行われる異文化学習等をテレビ会議システムにより結んでいる。

4. ベトナムからの遠隔授業

2月にハノイ-北大ひまわり間で遠隔授業を行った。内容は45分間でハノイの紹介、ベトナムの地理、国旗、ベトナムの文字、数字などに関する事柄をクイズ形式で紹介してもらうというものである。当初、テレビ会議システムがテストの度に片方向通信しか出来なくなったりしたので（現在は解消）、ベトナムでも利用できる Skype も用意しておいた。テレビ会議システムの通信速度は384kbpsとした。512kbpsでは packet lost が10-20%となり映像、音声とも不安定であったが、テスト期間、回数ともに少ないのでこの状態が定常的なものかは判断出来ず、今後の検討課題である。尚、6月以降、他の院内学級も参加を予定しているので、改めて大会で報告したい。



図1 画面右にベトナム・ハノイ

参考文献

- (1) 山本裕一、西堀ゆり、吉田徹、『揭示板型ツール「コラボード」と「コラボード広場」による院内学級での協調学習—院内学級での遠隔協調学習におけるシステム構築—』、教育システム情報学会第29回全国大会講演論文集、55-56(2004)
- (2) 山本裕一、吉田徹、西堀ゆり、『院内学級における学習者・教授者間コミュニケーションの活性化』、『平成17年度情報処理教育研究集会講演論文集』64-65(2005)
- (3) 山本裕一、黄松愛、佐藤修、小柳千佳子、霜村耕一、伊藤かおり、濱田和、佐藤聖子、西牧謙吾『院内学級におけるテレビ会議システムを用いた日中異文化交流授業』、『教育システム情報学会第41回全国大会講演論文集(H5-4)』、1-2(2016)
- (4) 横山強「特別支援学校の分教室におけるICT等の活用実践例について」、『特別支援教育』、No.58,28-3(2015)